

各 関 係 機 関 の 長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和 7 年度 技術情報第 6 号(早期水稻のいもち病)について (送付)

早期水稻のいもち病について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。



令和 7 年度 技術情報第 6 号

6 月初旬に早期水稻でいもち病の初発生を確認しました。梅雨に入り、いもち病の発生に好適な条件となることが予想されることから、ほ場をよく見回り、適切な防除に努めてください。

1 対象病害虫 いもち病 (葉いもち)

2 対象作物 早期水稻

3 発生状況及び情報の根拠

- (1) 6 月 2 日の早期水稻の巡回調査における調査(27 ほ場) で、南薩の 1 ほ場でいもち病の初発を確認した(図 1)。なお、南薩の 1 ほ場での発生程度は低い(表 1)。
- (2) 九州南部地方の向こう 1 か月の気象予報(5 月 29 日鹿児島地方気象台発表)によると、降水量は平年並か多く、いもち病の発生に好適となることが予想される。
- (3) 特に、気温の日較差が大きく、イネの葉に朝露が長く付着するような山間部等のいもち病の常発地では、発生拡大が懸念される。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 現在、未発生ほ場でもほ場内をよく見回り、発生に応じて防除対策を講じる。
- (2) 発生ほ場では、葉いもちから穂いもちの発生(感染)を防ぐために、水面に施用する粒剤等や茎葉に散布する液剤等で防除する。また、散布時は農薬のラベルをよく確認し、使用方法等を遵守する。
- (3) 上位葉に発生を認める場合は、液剤等で早急に防除する。
- (4) 粒剤等を用いる場合は出穂 10 日前頃までに、液剤等を用いる場合は穂ばらみ期から穂ぞろい期に防除する。
- (5) QoI 剤(アミスターなどを含むストロビルリン系殺菌剤)耐性イネいもち病菌の発生が懸念されるので、本田散布で本剤を使用する場合は、年 1 回とする。
- (6) 常発地や葉色の濃いほ場では、窒素質肥料の追肥を控えるなど、予防対策に努める。

5 調査結果

調査地域 ^{注1)}	調査 程 度 別 発 生 ほ 場 数 ^{注2)}				
	ほ場数	甚	多	中	少 無
南薩	13	0	0	0	1 12
大隅	14	0	0	0	0 14
計	27	0	0	0	1 26

注 1) 地域別の調査地点; 南薩: 頰娃, 吹上, 金峰, 加世田, 大浦
大隅: 有明, 大崎, 東串良, 串良, 高山, 吾平, 田代

注 2) 発生程度基準は, 甚: 病斑面積率が 50%以上, 多: 10%程度,
中: 2%程度, 少: 0.5%程度, 無: 病斑なし